

わいど わがまち 八戸

八戸学院大 部創設へ選手勧誘

八戸学院大学は、東北の大学で初となる女子ラグビー部の2017年度創設に向け、16年度から選手の勧誘や人材発掘活動を始め

る。今年のリオ五輪から7人制ラグビーが正式種目となり、男女とも日本が出場を決めるなど注目が集まる中、女子選手の受け皿づくりと選手層の裾野拡大を目指す。大谷真樹学長は「女子ラグビーは伸びしろがある競技。本学から東京五輪に出場する選手を育てたい」と意気込む。

同大では本年度、ラグビー部が東北地区大学リーグ1部昇格1年目で優勝を果たし、全国大学選手権フリースターステージに初出場。女子サッカー部も創部2年目で全日本大学女子選手権に東北第2代表として初出場した。

両部の活躍とラグビー人気が追い風となり、同大で女子ラグビー部創設の機運が盛り上がった。

関係者によると、県内の高校では青森商ラグビー部

来たれ！女子ラグー



に女子チームがあり、県南では八戸学院光星、八戸、八戸西、三本木農などで数人の女子部員が男子と一緒に練習している。しかし、高校を卒業すると競技から離れてしまうケースがほとんどだ。

選手勧誘は本県や岩手、秋田両県の北東北を中心に、1991年ラグビー女子W杯で主将を務めた経験がある八戸市のクラブチーム・八戸レディーズ主将の渡辺志保さんが協力。ラグビー経験者だけでなく、他競技からの転向も歓迎する。

部の発足当初は八戸レディーズと合同練習を行い、全国の大学・クラブチームによる「太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ」への

目指すは東京五輪代表育成

合同または単独チームでの出場を目指す。

さらに同大と、系列の光星高とでラグビー部の7年間の一貫した強化体制を構築するため、光星高ラグビー部顧問の中村良寛・同校副教頭が全体を統括するゼネラルマネジャーに就任。男女とも中学生から人材の発掘と育成に取り組む方針だ。

今月、同大学を卒業した成田優さん(23)は1年生だった11年度にラグビー女子日本代表候補に選ばれた経験があり、一時は同大ラグビー部に所属していたが、同大女子サッカー部の主力として活躍するようになり、ラグビーから離れた。

成田さんは「女子だけのチームの方が女子同士で競い合いながらレベルアップできると思う。八戸大の女子だけで大会に出るようになればうれしい」と後輩たちの活躍に期待を寄せた。

(千葉真由美)

八学大男子ラグビー部のユニホームを着て女子選手の入部を呼び掛ける成田さん